

令和2年度 事業計画書

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

令和2年度 事業計画

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

1. 協会活動方針

令和2年度の協会活動方針は、以下の通りとする。

- (1)当協会は、「CEATEC」「Inter BEE」の維持と発展を目的とし、主催者との連携をさらに強化し、出展企業のビジネス機会の創出に貢献することを目指し、最大限にリソースを活用出来るよう選択と集中を図り、企画、運営に努める。
また、Society 5.0 を基軸に、業界団体が主催する国際ビジネス展示会としての機能強化に取り組む。
- (2)「CEATEC」の変革を一層進展させ、日本の成長戦略や未来を世界に向けて発信する Society 5.0 の展示会として「CEATEC」を積極的にアピールする。
- (3)「Inter BEE」は、「メディア総合イベント」へと更なる発展を目指し、新企画等、各種の取り組みを加速させる。
- (4)会員企業ならびに出展企業の一層の拡大とサービスの向上に努めるとともに、事務の効率化と合理化を推進する。

2. 協会運営事業

総会、理事会、運営役員会等を次の通り開催し、当協会の運営に関する重要事項を審議し、各種事業を円滑に実施する。

(1) 通常総会

- ・第15回通常総会 : 令和2年6月1日(月)

(2) 理事会

- ・第48回書面理事会 : 令和2年5月13日(水)
- ・第49回書面理事会 : 令和2年6月1日(月)
- ・第50回理事会 : 令和2年11月30日(月)
- ・第51回理事会 : 令和3年3月24日(水)

(3) 運営役員会

理事会への対応を始め当協会の重要案件審議のため、適時開催とする。

3. 展示会事業

3-1 「CEATEC 2020」

(1)10月に「CEATEC 2020」を幕張メッセ(千葉市美浜区)にて開催する。

本年度で21回目を迎え、CPS/IoTの革新技術が集結する総合展示会として、Society 5.0の実現に向けてあらゆる産業・業種による「共創」を世界に向けて発信する。

開催テーマは「つながる社会、共創する未来」(英語表記:Connecting Society, Co-Creating the Future)、会期は、10月20日(火)より23日(金)の4日間。

2018年より、強化対象としてきた国際化について、より一層、注力し、国内外の政府機関、団体等と連携を図り、国際展示会としての位置づけを確立する。

①開催基本計画

あらゆる産業・業種による「CPS/IoT」と「共創」をテーマとしたビジネス創出のための、人と技術・情報が一堂に会する場とし、経済発展と社会的課題の解決を両立する「超スマート社会(Society 5.0)」の実現を目指す。

「CPS/IoT Exhibition」として、「政策」「産業」「海外」「次世代」を連携キーワードとする。

②出展区分/エリア構成

「トータルソリューション」

Society 5.0の実現に向けた、あらゆるソリューションや製品全般を展開するエリア。

「カテゴリーエリア」

特定の分野や産業、マーケットを革新的に変革するソリューションや製品を展開するエリア。

「デバイス&テクノロジー」

Society 5.0の実現を支える電子部品や電子デバイスおよびソフトウェアなどのテクノロジーを展開するエリア。

③企画展示

「Society 5.0 TOWN」

サービスやソリューションプロバイダを中心とした複数の企業の共創により、Society 5.0で実現する「2030年のまち」を構築する企画エリア。

「Co-Creation PARK」

未来を担う国内外のスタートアップ企業および海外諸機関のパビリオンを複合的に展開する企画エリア。

④コンファレンス

「KEYNOTE」

トップによる基調講演。各産業界をリードする企業経営者や次世代を担う企業経営者が登壇する。

「SUMMIT」

特定のテーマにてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。

「SESSIONS」

トレンドやテクノロジーなど専門性の高いセッション。

各業種・業界の専門家による講演や各種団体主催のイベントなどを開催する。

⑤次世代との共創プログラム

Society 5.0の実現に向け、今後の社会をデザインする高度な人材育成等を目指し、CEATEC 学生支援プログラム（仮称）の立案に向け、大学関係者によるアドバイザリーボードを設置し、カリキュラムの作成を図る。

また、文部科学省とも連携し、効果的な展開を図る。

⑥Society 5.0の実現に向けて世界感を産業横断的にオールジャパンでアピールできる場として、持続的な産業発展への一助となるべく、関連産業、関連団体等との連携を図り、その在り方と中長期的な着地点を見出す活動を向上させる。

⑦海外来場者／プレスの誘致

各国大使館、各国業界団体（主催団体のカウンターパート団体）、CEATECの海外パートナーを通じ、視察ミッションの醸成による来場誘致を図る。

また、欧米およびアジアの有力メディアを対象に、海外メディアの誘致を更に強化する。

(2)「CEATEC 2020 実行委員会」を年7回開催し、本年の実施計画を立案する。

また、実行委員会の傘下に中長期戦略の検討に関する専門委員会を設置し、具体策の検討、課題検証、今後の対策検討等を行う。

3-2 「Inter BEE 2020」

(1) 11月に「Inter BEE 2020」を幕張メッセ(千葉市美浜区)にて開催する。

本年で56回目を迎え、名称を「国際放送機器展」から「Inter BEE」を正式名称として、更なるメディア総合イベントへの発展に向けた各種の取組みを加速させる。

会期は、11月20日（水）より23日（金）の3日間。

①開催基本計画

超スマート社会「Society 5.0」の実現に向けて、音響・映像・放送・通信の垣根を超え、メディア&エンターテインメントの産業領域を広げて進化を加速、新次元でのビジネスを拓きます。

メディア&エンターテインメント産業の新たなユーザー体験を提示する場として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、「つくる（制作）」「おくる（伝送）」「うける（体験）」の要素を網羅した「メディア総合イベント」に発展することを目指す。

②出展部門・構成

「プロオーディオ部門」

最新技術と多彩な高品質システム・製品が集結、国内最大のプロユース音響ビジネスの場。

「映像表現・プロライティング部門」

エンターテインメントの領域と世界を広げる、新たなメディア体験の発信とビジネスの場。

「映像制作・放送関連機材部門」

進化を続ける映像と放送プロダクション、最大・最先端の技術・システム・製品の提案空間。

「ICT・クロスメディア部門」

広がるメディアコミュニケーションが一堂に会し、放送と通信の連携・融合の最前線。

③特別企画

「INTER BEE IGNITION」

VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、ホログラム等の映像表現技術や、ライブエンターテインメント技術を集め、新たな映像体験を訴求する企画を展開する。

「INTER BEE CONNECTED」

番組同時配信、キー局のネット戦略、OTT 最新動向、視聴計測技術等、メディアビジネスの最新動向を集約して情報交流を促進する展示とセッションを展開する。

「INTER BEE EXPERIENCE」

SR スピーカー体験デモと、高品質なヘッドフォンとマイクロフォンの試聴デモを展開し、来場者に体感していただく。

「INTER BEE CREATIVE」

ヒット作品のメイキング映像等を本企画限定で披露し、第一線で活躍する監督やクリエイターによる制作秘話や、最新の制作ツールの活用事例等を紹介する。

「INTER BEE 5G」

超高精細映像伝送、高品質リアルタイム中継をはじめメディアとエンターテインメントの新たなユーザー体験を提案・紹介する。

④デジタルコンテンツ EXPO 2020 を同時開催

最先端コンテンツ技術の国際イベント「デジタルコンテンツ EXPO 2020」（主催：一般財団法人デジタルコンテンツ協会）を昨年に引き続き、Inter BEE 会場内で同時開催する。コンテンツの制作支援や表現を豊かにする多様な技術を紹介し、未来を体験いただくとともに、コンテンツ技術のメディア&エンターテインメント分野への活用を促進させる。

(2)「Inter BEE 2020 実行委員会」を年間6回開催し、昨年度までの反省点、改善点を明確にし、本年度の運営に反映させる。効率的なBtoB展示会の機能をさらに強化すべく、実行・推進する。また、実行委員会の傘下に企画ワーキンググループを設置し、国際会議場にて実施する講演会を「INTER BEE FORUM」として、Inter BEE が指し示すべき全体の方向性やテーマを検討しプログラム化する。また、各特別企画の推進をタスクグループ化し、企画の横連携、棲み分け、情報共有の場として活用する。さらに、実行委員会の検討枠外で実施される民放技術報告会とも連携を図る機関とする。

(3)セミナー／コンベンション事業

①INTER BEE FORUM 基調講演

②INTER BEE FORUM 特別講演

③INTER BEE FORUM テクニカルセッション

3-3 「The 8th After NAB Show Tokyo 2020」

5月の「The 8th After NAB Show Tokyo 2020」は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況および、政府によるイベント等の自粛要請を受けて、来場者と出展者の健康と安全のため、**NAB**日本代表事務所(映像新聞社)と協議の上、中止といたします。

主催：**NAB**日本代表事務所(映像新聞社)/一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

4. 国際連携活動

当協会が運営する展示会の国際化の促進を図るため、次の海外関連展示会の主催団体等と広告、プレスコンファレンス、出展誘致などの相互協力を行うとともに、各展示会の情報収集活動を行う。

①CEATEC グローバルパートナー

Consumer Technology Association (CTA) / CES (USA)

Messe Berlin / IFA (Germany)

Plug & Play Japan

②Inter BEE グローバルパートナー

Asia-Pacific Broadcasting Union (ABU)

International Association of Broadcasting Manufacturers (IABM)

Taiwan Electrical and Electronic Manufacturers' Association (TEEMA)

National Association of Broadcasters (NAB), Las Vegas

International Broadcasting Convention (IBC), Amsterdam

China Content Broadcasting Network (CCBN), Shanghai

Beijing International Radio, TV & Film Equipment Exhibition (BIRTV)

Korea International Broadcast, Audio & Lighting Equipment Show (KOBA)

Broadcast Asia / Avia

Broadcast India / SET

Prolight + Sound Guangzhou / Prolight + Sound Shanghai

以 上